

赤谷プロジェクト 近況報告

センサーカメラを活用した 取組について

赤谷プロジェクトでは「センサーカメラ」という道具を用いて様々な活動を行っています。今回は、このセンサーカメラについて紹介したいと思います。

センサーカメラとは、赤外線により温度を感知するセンサーが搭載されたカメラのことで、フィルム式とデジタル式の両方のタイプがあります。

いずれのタイプも生き物の体温など温度をセンサーが感知して自動的にシャッターがおりる仕組みになっています。

プロジェクト活動の中でセンサーカメラを使用する用途は、大きく分けて2つあります。

1つめは、調査・研究を目的として使用しています。間伐箇所など植生試験地において動物相の変化を調査したり、人工林と天然林での動物分布の比較調査、あるいは動物の習性を調べるために用いています。しかし、カメラの検出距離が4〜5メートルであることから、例えば「ある水場を使っている動物を調べる」といっ



フィルム式
センサーカメラ



いきもの村で撮影された
ツキノワグマ



間伐試験地で撮影
されたノウサギ



うり坊
(イノシシの子ども)
も写りました



どんな動物が写るのか、想像しながら設置しています

た狭い範囲の調査にはとても有効ですが、森林全体のことを調べる際にはカメラの特性を考慮して行う必要があります。

2つめは、森林環境教育の一環として使用しています。森の動物は小鳥など一部を除いて夜行性であることが多いため、日中の森で動物と出くわす機会は多くありません。「赤谷の森」を訪れた児童・生徒のみならずには、実際にその場所でセンサーカメラが写し出した動物の写真を見せることで、より具体的に動物の生態について解説することができます。

また、合わせてセンサーカメラの設置実習も行っています。参加者自らが動物の出現しそうな箇所を考えた上でカメラを設置してもらいます。

写真は後日現像し、写し出された動物の説明や習性などコメントを加えて学校にお送りしており、児童・生徒のみなさんを含め学校関係者に

は好評を得ています。
最後に、興味をお持ちの方は是非一度お試しされることをお勧めします。新しい発見があるかも知れません。

赤谷の森の自然散策(冬版) の開催について

赤谷センターの恒例行事となっている、赤谷の森の自然散策が2月17日に開催されました。今回は真冬の開催で、冬芽や動物のフィードバックについて学びました。

当日は、雪が降っている中での開催のため、雪原に残るフィールドサイン(動物の足跡)などは観察できませんでしたが、普段、あまり関心が持たれることが少ない冬芽について、とても詳しい勉強をすることが出来ました。



寒い一日にもかかわらず、熱気のある参加者の皆さん

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)